

自閉スペクトラム症者の終助詞使用の研究

脳機能系障害研究部 高次脳機能障害研究室 幕内充

私たちは普段、一緒においしいものを食べたとき「美味しいね」と感想をシェアする、あるいは食べたことのない料理を前に不安そうな人に対して「美味しいよ」と教えてあげる、というように文の最後に「よ」や「ね」などの終助詞を使います。一方で、終助詞を使わなかったり聞き手の知識や感情に配慮して適切に使わないと、相手を不快にさせてしまうこともあります。終助詞「よ」「ね」がそれぞれ適切な場面で自閉スペクトラム症の方と定型発達の方が同様に終助詞を使うのかを調べる行動実験を行いました。すると、次のふたつの結果が得られました。

- ① 自閉スペクトラム症の方は「ね」を使う頻度が定型発達の方より少ない。
- ② 自閉スペクトラム症の方は「よ」を使うのが不適切な場面で、「よ」を使う頻度が定型発達の方より多い。

我々は自閉スペクトラム症の方と定型発達の方の言語使用の違いについての特徴を明らかにすることで、診断や言語教育などに役立つのではないかと考えています。定型発達の方と自閉スペクトラム症の方がお互いの言語使用の特徴を理解して会話場面でのすれ違いを減らす一助になれるかもしれないと考えています。特性の異なる話者同士の円滑な会話を手助けできるようなデバイスの開発への応用も目指しています。

加えて、機能的核磁気共鳴画像法を用いて、終助詞「よ」「ね」「よね」が文末について文を読んでいる時の脳活動を計測しました。その結果、終助詞の処理には、伝統的に言語野と呼ばれる脳領域だけでなく、社会的コミュニケーションに関する脳領域も寄与していることが分かりました。自閉スペクトラム症の方と定型発達の方で終助詞の使い方が異なる背景には、社会的コミュニケーションの方略の違いが関わっているのかもしれませんが。